

# 呉港



## 呉市産業部

〒737-8501 呉市中央4-1-6

☎0823-25-3333 FAX0823-25-1361

URL : <https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/34/>

## 1. 概況

### 〈沿革〉

瀬戸内海のほぼ中央に位置する呉港は、良好な地形により、古代から天然の良港として発展してきたが、平清盛の「音戸の瀬戸」開削により、内海航路の要衝たり得る地位を確保し、明治の初めまで半農半漁の地域であった。

しかし、明治19年、第二海軍区軍港の指定、次いで同22年、呉鎮守府の開庁とともに、本格的な海事基地の建設が進められ、関連諸施設、海軍工廠があいついで造営された。

第2次大戦中は、40万人をこえる人口を擁し、戦艦「大和」の建造をみるように、東洋一の軍港、日本一の工廠の町として、偉容を誇るに至った。

終戦後、軍港的機能は全く失われ、産業港への転換に伴い、昭和23年、開港指定を受け、同26年、重要港湾となり、翌27年には、呉市が単独で港湾管理者となって、呉港の自主的運営が確立した。そして、さらに米穀類、木材の輸入港に指定された。

また、旧軍港市転換法により、「平和産業港湾都市」へと発展することが決まり、旧軍関係施設跡に企業が進出し、臨海工業地帯（造船、鉄鋼、大型機械、パルプ）に変貌した。

他方、昭和29年に海上自衛隊地方総監部が開設され、さらに教育隊、潜水艦基地隊と増設され、自衛隊と共存共栄の道を歩むこととなった。

昭和33年、中央さん橋の建設をはじめ、仁方さん橋等の海の玄関の機能強化につとめ、周辺島しょ部及び四国との海上交通の基地として重要な役割をになっている。

今日では、合併後工業出荷額1兆2千億円をこえる港湾都市として広島広域都市圏はもとより、瀬戸内海における工業面での中核的機能を担当する拠点となっている。

### 〈地勢〉

呉市は気候温和で、降雨量は少なく、入江、湾が多くて呉港の海岸線総延長は51kmに及ぶ。面積の3分の2を山林がしめ、平坦地が少なく、臨海部は工場群がひしめき、急傾斜地に民家が密集して特異な土地利用形態となっている。

呉港は、背後三方を山が囲み、北風を防ぎ、対岸は瀬戸の島々が自然の防波堤をなして、波静かで穏やかである。

港域は、呉港区、広港区、仁方港区の3港区に区分されている。呉港区は、背後に旧海軍工廠跡地と枢要市街地を有

し、水深が深く、天然の良港を形成して呉港の主要部となっている。

### 〈港勢〉

呉港で取り扱っている外貿貨物については、原材料輸入による鉄鉱石、原木、チップ等が大きな割合を占め、主要取引相手国はオーストラリア、ブラジル、アメリカ等となっており、一方、輸出は東南アジア諸国に向けての鉄鋼、機械類が主なものとなっている。

内貿貨物では、瀬戸内海沿岸地域を結ぶフェリー貨物が大部分を占め、その他にも関東から沖縄に至るまでの海上輸送が頻繁に行われており、移出では鉄鋼、紙及び木材、移入では鉄鋼、コークス等が主なものとなっている。

### 〈将来計画〉

阿賀マリノポリス地区は瀬戸内海の主要航路に直結し、阿賀マリノ大橋（平成23年3月開通）、東広島・呉自動車道（同27年3月全線開通）を通じて、山陽自動車道等の幹線道路網にアクセスする地理的優位性を有しており、東広島市を中心とした広島中央テクノポリス圏域、市内の郷原・苗代地区の内陸部工業団地と連絡した物流拠点となることを目的に、これまで用地造成、整備を進めてきた。

平成22年度には緑地（3.6ヘクタール）を供用開始、阿賀マリノ大橋開通に合わせて、主要地方道呉環状線に接続する臨港道路・阿賀マリノポリス1号線が開通し、交通アクセスが向上したほか生活道路として利用されている。

同地区は、呉地方拠点都市地域の整備計画において流通・交流拠点地区として位置づけられており、物流拠点としての機能強化や臨海部工業用地の整備を進めており、平成28年度には天井クレーン付き貨物上屋の供用を開始するほか、物流環境の活性化、安定化を図るため、内航定期航路の誘致、基盤整備による物流機能強化に取り組んでいる。